



はちのす

木戸小学校学校だより

令和7年9月9日

学力調査の結果のお知らせ

日ごろより、当校の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。今年度を実施した2つの学力調査について、結果を報告します。

◇全国学力・学習状況調査（6年生対象）

調査は大きく分けて、学習状況を見る調査と、生活習慣や学習環境などを見るアンケート調査があります。

○教科に関する調査

【出題範囲】原則として調査する学年の全学年までに含まれる指導事項

【出題内容】下記(1)と(2)を一体的に問う。

- (1)身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- (2)知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

○生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・学習意欲や学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

結果分析から見える成果と課題、今後の対策について以下に示します。

	木戸小	新潟県	全国	全国比
国語	65	66	66.8	▲1.8
算数	56	56	58.0	▲2.0
理科	53	55	57.1	▲4.1

【本校児童の調査結果から】

国 語	【成果が見られたところ】 ・漢字を正しく表記する。 ・文章構成の工夫を見付けることができる。 【課題が見られたところ】 ・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 ・相手の考えや思いを正しく読み取ることができる。	【今後の取組】 ・考えや思いが伝わる文章を書く力を高めるために、 ① 文章を書く目的意識をもつ。 ② 自分の考えを明確にする。 ③ 必要な情報を取捨選択する。 ④ 文章にまとめる。 ・相手の考えや思いを読み取る力を高めるために、 ① 図などの資料から読み取れることをまとめる。 ② 目的意識をもって聞いたり話したりする。
算 数	【成果が見られたところ】 ・伴って変わる2つの数量の関係について正しく理解している。 【課題が見られたところ】 ・目的に応じて適切なグラフを選択することができる。 ・問題に対して、正しい数値や言葉を用いて説明することができる。 ・単位量あたりの大きさをを用いて数を表すことができる。	【今後の取組】 ・目的に応じてグラフなどの活用力を高めるために、 ① グラフの理解を図る。 ② 目的に応じて適切なグラフを選択する。 ・問題に対しての自分の考えを相手に文章で伝える力を高めるために、 ① 伝える場面を設け、評価する。 ② ①の評価を受けて、再思考する。 ・図表を用いて単位量あたりの大きさを理解する。
理 科	【成果が見られたところ】 ・実験結果をもとに、正しく考察することができる。 【課題が見られたところ】 ・金属についての性質、植物の受粉、顕微鏡の操作、水の性質、回路などの知識・技能が身に付いている。	【今後の取組】 ・理科の知識・技能を身に付けるために、 ① 繰り返し問題を解いたり説明したりする。 ② 学習したことをまとめる活動を設ける。

児童質問紙調査から	【成果が見られたところ】 ・友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。 ・学習の中でタブレットを使って調べたり、文章作成をしたりするなど、上手に活用している。	【今後の取組】 ・総合的な学習の時間でキャリア教育を行っている。ゲストティチャーから職業観や人生観を学び、自分の生き方について見つめていく活動を行う。 ・ICTを活用した授業を毎日取り入れていることで、自分の考えを深めたり、意見を交換したりしやすい環境になっている。今後もICT機器を活用していく。 ・新聞や読書など活字離れが気になる。読書の時間や朝読書を定期的に設定したり、読み聞かせをしたりして、活字への興味を高める機会を取り入れていきたい。
	【課題が見られたところ】 ・新聞や本を読んでいる児童が少ない。 ・「将来の夢や目標をもっている」や「自分にはよいところがある」について、全国と比べ、否定的に思っている児童が多い。	

◇NRT標準学力調査（2～6年）

4月に、2年生以上でNRTも実施しました。国語・算数とも平均以下の学年が昨年度より増えました。各学年が結果を分析し、今後の教育活動に課題克服に向けて取組を考えました。

※偏差値は小数第2位を四捨五入。全国の偏差値平均を「50」としています。

学年	国語	算数
2	49.5	51.4
3	46.1	44.1
4	49.1	51.3
5	50.1	45.3
6	47.1	46.9

	課題	今後の取組
2年	- 作文、観察文の問題では、句読点、かぎを上手く扱えない。 - 長さ、広さの直接比較の問題では、聞かれていることを勘違いする児童が多かった。	- 観察文を書かせる際、五感を使うことや大きさ、数、形、色を意識するように働きかける。 - 問題をよく読み、大事なところに線を引いたり、しるしをつけたりするなどを指導していく。
3年	- 物語文の場面読み取りや要点の理解について誤答や無答が多く見られた。 - 長さ、かさの問題では、メモリを正確に読んだり、単位を理解して解いたりすることができていなかった。	- 物語文の学習で登場人物の心の動きから要点の理解を深める学習活動を行う。 - 単位を意識した指導をするとともに、普段の授業で、数直線などが出てくる際には、正しく目盛りを読み取るように指導する。
4年	「情報を選び構成を考えて話す」、「話や意見の背景を考え話し合う」ことに課題があった。 - 分数（全国比94）二等辺三角形、角、円の正答率が全国よりも低い。	- 話合いの学習では内容をメモし、どう話すとよいか考える場を設定する。紹介したい本をグループで話し合って決め、本の良さを伝えるためにはどんな内容がよいか考えて発表する。 - 数直線を使っての小数・分数のしくみが理解できるように指導する。また、繰り返し、三角定規の角度や図形の定義について確認する。
5年	「目的に応じて工夫して書くこと」が全国と比べて低かった。 「平行・垂直と四角形、面積」、「角の大きさ」が全国と比べて低かった。	「段落の初めに入る『接続する語句』を選択する問題」の正答率が有意に低かったため、文章作りをする時間を通して、接続語について繰り返し指導をする。 - 特に図形の学習では、こまめに基礎の既習事項に戻って確認し、その既習事項を元に説明したり、表現したりするようにしていく。
6年	- 文章の読み取りがうまくできていない。 - 問題を解くことについて、時間がかかっている。	- 言葉や文に着目して丁寧に読み進めたり、心情や場面を繰り返し問うたりする。 - ドリルパークを使って様々な問題を解く活動を設ける。また、計算ドリルなどを時間内で取り組む活動を設ける。

上記のような取組を進めていきます。今後も木戸っ子に学ぶ意欲と課題を解決できる力を育てられるように、努めていきます。

文責 研究主任 鈴木 健太郎